

「神之嶺小学校の県指定無形民俗文化財夏目踊り伝承活動の取組」

1 学校名

徳之島町立神之嶺小学校

2 学年・人数

1年生～6年生（計53人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時

令和3年4月～令和4年2月

総合的な学習の時間，創意（本校多目的スペース・体育館）

(2) 発表の日時・場所

令和3年11月21日（日）新船就航歓迎セレモニー（亀徳新港）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

井之川夏目踊り（いのかわなつめおどり）

(2) 由来

琉球服属時代（約500年前）には伝わっていたといわれているが詳細は不明。旧暦七月に，人々が先祖に対し収穫を感謝し，集落の平安，家々の安泰のお祝いをするためのもの。

(3) 構成等

チヂン（太鼓）の打ち手3人～4人とそれを取り囲むように男性が円陣を作り，さらに女性が外回りに円陣を作り，「あったら七月」等を歌いながら踊る構成。踊りは，「押す，拝む，こねる」の三基本型の変化形。歌は，全13種類あり，歌によって踊り方も違う。

5 保存会や地域との連携の具体

年間を通して，保存会の方々を講師として学校に招聘し，夏目踊りの指導をしていただいている。今年度はできなかったが，例年は運動会での発表時は，地域の方々にも踊りに参加していただくことで，大変盛り上がっている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

(1) 練習や発表時間を，総合的な学習の時間や創意の時間にきちんと位置付けることによって，郷土を愛し誇りに思う態度の育成につなげている。

(2) 保存会の方々に，夏目踊りの意義や歴史，歌詞の意味等も併せて指導していただくことで，児童の活動意欲を高めている。

(3) 平成14年に文化財少年団を結成し事務局を学校に置くことで，地域と学校が一体となって，県無形民俗文化財夏目踊りの継承活動を行っている。

(4) 大型アクリル板に書かれた夏目踊りの歌詞を多目的スペースに常時掲示しいつでも歌詞を覚えられるようにしている。

7 取組の様子



夏目踊りのお話



保存会の方々による指導



新船の初就航を祝って（保護者・地域の方々も一緒に）



8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 夏目踊りの歌は島口で少しむずかしいけど、歌いながら踊るのがとても楽しい。（児童）
- 今年は浜下りも運動会での発表もなくなって残念に思っていたが、新船の就航セレモニーで踊ることができて良かった。
- 学校の授業の中で練習できるのはとてもいいことだと思う。（保護者）
- 島口の歌詞なので覚えるのが難しいと思うが、繰り返し歌うことで、自然と覚えていく。まずは、歌や踊りを楽しんでほしい。楽しかったことは、大人になっても忘れないから。また、学校が伝統継承に協力的なのが大変うれしい。今後もいくらでも協力していくので、この活動がなくならないようにしてほしい。（保存会）
- 「ふるさとを愛し、自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる神之嶺っ子を育成する」という学校教育目標にもある通り、「夏目踊り」は、まさしく生きた地域の教材だと思う。今後も保存会のみなさんに協力をいただきながら、本校の特色ある教育活動として継続していきたい。（教員）